令和2年度　大田区立松仙小学校　自己評価　報告書

令和3年3月16日

## ○　本校の概要

☆　開校67周年目、児童数778名、24学級。地域からは落ち着いた学校として一定程度の評価を得ている。
☆　学級担任24名中、新規採用2名、教員全体の平均年齢は37．7歳で、20代30代の経験の浅い教員が6割超をしめており、校内において教師としての基礎・基本の徹底及び教師としての資質・能力の育成を図っており、徐々に成果が出てきている。
☆「健康・安全・人権」を学校教育の基盤とし、「挨拶・運動・笑顔・思いやり」を大切にする児童の育成を図っている。
☆　本年度の校内研究は,「楽しい体育の授業の創造～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて～」をテーマとし, 体育科における主体的・対話的な学びの実践を通し生涯にわたって運動に親しむ児童の育成を図っていく。
☆　多様な人間関係を築く機会と場を保証するために, 毎年, 全学年学級編成替えを実施し, フランクリン・コビィー・ジャパン社との連携により「リーダー・イン・ミー」の考えを基に新しい自分の可能性を追求し, 自尊感情を高めるような取組をする。
☆　委員会活動やクラブ活動、縦割り班活動などの異学年交流を設定し，特に高学年の自己の存在意義や役割を意識化できる機会と場を増やすことに取り組んでいる。

## ○　自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

| 大項目 | 目標 | 取組内容 | 取組指標 | 取組評価 | 目標に対する成果指標 | | 成果評価 | これまでの取組 今後の改善策 | 学校関係者記入欄 評価 | 人数 | コメント |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| プラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育成 | コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしなやかに対応する子どもの力と自信を身に付けます。 | 外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3:80%以上が回答した。<br>2:60%以上が回答した。<br>1:60%未満であった。 | 3 | プラン2～6までの児童・保護者向け学校評価アンケートの肯定的評価（A・B評価）の割合 | 4: 90%以上<br>3: 75%以上<br>2: 60%以上<br>1: 60%未満 | 3 | ○外国語専科教員を活用し、各学年のいに即した外国語指導、及び外国語活を実施した。6年生では、オールイングリシュでコミュニケーションで活動する「イングリッシュキャンプ」に取り組み、日ごろの学習の成果を発揮する機会を設定した。<br>○ICTは日常的に活用することができてるが、ネットワークトラブル等の影響で、ての教員が週一回以上とはいかなかった。ネットワーク環境も改善されてきているので、さらに効果的な活用を図る。<br>○人権に配慮した教育活動を基盤として感染症対策に関わる指導・取り組みを行ってきたが、人権教育資料を活用した学年が限られていた。人権教育に関わる年間指導計画を見直し、計画的な指導を図る。<br>○体力調査を実施することはできなかったが、縄跳び運動等で運動の日常化をることができた。引き続き、感染症対策を講じながら、運動の機会を設定し、心身健康を推進する。<br>○校長の経営方針をあらゆる機会を通じて教員、児童に周知した。全教員で挨拶の励行について取り組みを行うことができた。今後は、学校での取り組みを地域で生かすための工夫が必要である。 | A<br>B<br>C<br>D | 4<br>2<br><br> | ●ICT教育に力を入れており、教育の質の向上や時代が求める新しい学びの実現に有効なものだと思います。<br>●児童も楽しそうにChromebookを使っていて、非常に効果的だと思います。<br>●Chromebookの使い方について、子供たちにもっと時間を使って分かりやすく教えた方がよいのではないか。子供から「分かりにくい」という声も聞こえていました。<br>●ICTを活用した教育は必要だが、ネット環境の改善を早急に行うべき。<br>●挨拶は、子供が自ら進んでする場面が多いので、学校へ行くととても気持ちが良いです。<br>●コミュニケーションの一番は挨拶。日々、子供たちの挨拶の声が元気になっていると思います。<br>●挨拶の活性化など、地域でもできることは協力します。 |
| | | 論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おおたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。 | 4:全教員が行った。<br>3:80%以上の教員が行った。<br>2:60%以上の教員が行った。<br>1:60%未満であった。 | 3 | | | | | | | |
| | | 学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。 | 4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。<br>3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。<br>2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。<br>1:60%未満であった。 | 3 | | | | | | | |
| | | 他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。 | 4:対象となる全学級（全教員）で行った。<br>3:80%以上で行った。<br>2:60%以上で行った。<br>1:60%未満であった。 | 2 | | | | | | | |
| | | 体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。 | 4:全教員で行った。<br>3:80%以上の教員で行った。<br>2:60%以上の教員で行った。<br>1:60%未満であった。 | 3 | | | | | | | |
| | | 「進んで挨拶をする子」の育成に向けて、重点的・継続的に指導する。 | 4:全教員で行った。<br>3:80%以上の教員で行った。<br>2:60%以上の教員で行った。<br>1:60%未満であった。 | 4 | | | | | | | |
| プラン2 学力の向上 | 児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。 | 学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。 | 4:対象となる全学級（全教員）で行った。<br>3:80%以上で行った。<br>2:60%以上で行った。<br>1:60%未満であった。 | 2 | 保護者向け学校評価アンケート項目「学校は、学力の定着・向上に努めている。」における「はい」（A評価）の割合 | 4: 65%以上<br>3: 55%以上65%未満<br>2: 45%以上55%未満<br>1: 45%未満 | 4 | ○学習カルテを作成し、例年通りの取り組みは行ったが、効果的な活用についてはさらなる工夫が必要である。<br>○児童、保護者と算数の到達度につい共通理解を図ることはできた。<br>○学習指導講師や学生ボランティア、サポート松仙の協力の下、算数の補習活を実施した。希望者が学年によって偏る傾向があるため、次年度以降はタブレッ端末等も活用し、さらに個々に合う学習取り組めるようにする。<br>○授業改善推進プランを作成し取り組んだが、感染症対策の様々な制約の中では、これまでの取り組みを生かすことが難な場面も多かった。今年度の経験を生かして、感染症対策との両立を図る。<br>○単元の見通しや学習活動の目標把握など、児童が理解しながら学習に取り組むことができてきた。今後は、共通のめあてのみではなく、個別の学習課題設定も発達段階に応じて取り入れる。 | A<br>B<br>C<br>D | 3<br>2<br>1<br> | ●保護者向けアンケートでも、保護者から高い評価を得ている通り、先生方の日頃の指導が良いのではないかと思います。<br>●低学年児童の「勉強が分からない」という子たちを、どのように引き上げていくのかが課題だと思う。 |
| | | 算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。 | 4:学期に2～3回知らせた。<br>3:学期毎に知らせた。<br>2:年度間に1回は知らせた。<br>1:お知らせできなかった。 | 3 | | | | | | | |
| | | 学習指導講師等による算数の補習を実施する。 | 4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。<br>3:80%以上の教員が働きかけた。<br>2:60%以上の教員が働きかけた。<br>1:60%以下の教員が働きかけた。 | 3 | | | | | | | |
| | | 授業改善推進プランを、授業に生かす。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3:80%以上が回答した。<br>2:60%以上が回答した。<br>1:60%未満であった。 | 2 | | | | | | | |
| | | 単元の見通しや毎時間の学習の具体的なめあてや授業の流れを子供に明示し、主体的に学習に取り組む態度を育成する。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3:80%以上が回答した。<br>2:60%以上が回答した。<br>1:60%未満であった。 | 3 | | | | | | | |
| プラン3 豊かな心の育成 | 子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。 | 小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。 | 4:全教員が行った。<br>3:80%以上の教員が行った。<br>2:60%以上の教員が行った。<br>1:60%未満であった。 | 2 | 児童アンケートの「自分は、自分のリーダーになって学習や生活に取り組むことができている。」の項目において「はい」（A評価）の割合 | 4: 45%以上<br>3: 35%以上45%未満<br>2: 25%以上35%未満<br>1: 25%未満 | 3 | ○小中一貫教育については、道徳教育共通の柱として、規範意識の醸成と道徳的実践力の向上に向けた授業改善を図る。連携校相互の実態に基づいた指導計画を作成し、系統性を重視しながら一体なった取り組みを推進する。<br>○学校生活調査を活用した取り組みを学期に1回実施した。ストレス症状を確認して児童との個別面談を行い、他機関との連携につながったケースも見られた。今後は調査実施後に、いかにスピーディーに実態を把握、確認するかが課題である。<br>○いじめはどの学級、どの児童にも起こ得るものという認識のもと、毎週の生活指導夕会の場を活用して情報共有、組織的対応に努めた。情報共有後の方策を検討する場と時間の設定をより計画的にする必要がある。<br>○問題行動、不登校問題については、関係機関と連携（教育センター、SSW、心理士等）して対応してきた。今後はケース会議を情報共有の場としてのみではなく、検討の場となるよう、進行方法等を修正する。<br>○リーダーインミーの学習で学んだことを生活場面で活用しようとする姿が見られる。今後は児童が主体的に行動する場面で価値付けることを通して、その理念を教育活動に生かす。 | A<br>B<br>C<br>D | 5<br>1<br><br> | ●「自分が自分のリーダーとして取り組む」という児童アンケートでは、12%の児童が否定的な回答をしています。高学年になるにつれて、この傾向が見られるので、今後の取り組みがさらに大切になると考える。<br>●児童アンケートで、「仲の良い友達がクラスにあまりいない」と回答している児童が5%います。こうした児童に確実なケアをしてほしいと思います。<br>●コロナ禍で児童のストレスが大きいと思う。一人一人の学校生活や態度に目配りをお願いします。 |
| | | 道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。 | 4:学期に2～3回（年間6回）以上行った。<br>3:学期に1回（年間3回）以上行った。<br>2:年度間に1回以上行った。<br>1:実施しなかった。 | 2 | | | | | | | |
| | | 学校生活調査（メンタルヘルスチェック）の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。 | 4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。<br>3:80%以上の教員が回答した。<br>2:60%以上の教員が回答した。<br>1:60%未満であった。 | 2 | | | | | | | |
| | | 学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。 | 4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。<br>3:80%以上の教員が回答した。<br>2:60%以上の教員が回答した。<br>1:60%未満であった。 | 3 | | | | | | | |
| | | 問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。 | 4:必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。<br>3:必要な事案に対しておおかた会議を実施した。<br>2:必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。<br>1:必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。 | 3 | | | | | | | |
| | | 「リーダーインミー」の授業の実施と全教育活動における指導において、児童が主体的に行動できる素地を身につけさせる。 | 4:全教員で行った。<br>3:80%以上の教員で行った。<br>2:60%以上の教員で行った。<br>1:60%未満であった。 | 3 | | | | | | | |
| プラン4 体力の向上と健康の増進 | スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。 | 「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。 | 4:全教員で行った。<br>3:80%以上の教員で行った。<br>2:60%以上の教員で行った。<br>1:60%未満であった。 | 2 | 保護者向け学校評価アンケート「学校は、体育指導・給食指導・保健指導等で，健康教育・体力向上に努めている」項目において、「はい」（A評価）の回答の割合 | 4: 61%以上<br>3: 51%以上61%未満<br>2: 41%以上51%未満<br>1: 41%未満 | 4 | ○基本的な生活習慣に関する意識啓発を通して、感染症拡大防止対策につながる具体的な方策と、その目的児童、保護者へ各種通知を中心に伝えてきた。<br>○給食指導と運動習慣の関連について児童へ指導を行い、児童の総合的な体力向上、健康教育推進を図ることができた。<br>○校内研究会は規模を縮小せざるを得ず、年間3回の研究授業実施となた。校内研究と感染症対策を両立させ、研究の成果を各学年の指導に生かすことが今後の課題である。 | A<br>B<br>C<br>D | 5<br>1<br><br> | ●コロナ禍で校内研究会を縮小するの対策を施し、児童の指導を充実できたのは良かった。<br>●感染症拡大防止対策も、手洗い、アルコール消毒等の徹底をしていて、非常によいと思います。<br>●今後も機会あるごとに運動習慣を身に付ける指導をお願いします。 |
| | | 給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。 | 4:全教員で行った。<br>3:80%以上の教員で行った。<br>2:60%以上の教員で行った。<br>1:60%未満であった。 | 3 | | | | | | | |
| | | 体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。 | 4:全教員で行った。<br>3:80%以上の教員で行った。<br>2:60%以上の教員で行った。<br>1:60%未満であった。 | 3 | | | | | | | |
| | | 校内研究を「楽しい体育の授業の創造」とし、体育学習等を通し、児童が生涯にわたって運動に親しむ素地を育成する。 | 4:全教員で行った。<br>3:80%以上の教員で行った。<br>2:60%以上の教員で行った。<br>1:60%未満であった。 | 3 | | | | | | | |
| プラン5 魅力ある教育環境づくり | 児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくります。 | 授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3:80%以上の教員が回答した。<br>2:60%以上の教員が回答した。<br>1:60%未満であった。 | | 保護者向け学校評価アンケート「子供は、分かりやすい授業、楽しい授業を受けている。」の項目において「はい」（A評価）の回答の割合 | 4: 60%以上<br>3: 50%以上60%未満<br>2: 40%以上50%未満<br>1: 40%未満 | 4 | ○感染症拡大防止対策、緊急事態宣言等を受け、学校公開の設定が3学期となった。<br>○校内OJTは、主任教諭が主催した「わかめの会」によるオンライン研修や、学習評価に関する検討会等、社会状況に即した内容を定期的に実施することができた。<br>○研究発表会等における研修成果を授業改善に生かすことが本年度は困難であった。次年度は、計画的に取組む。<br>○校内委員会を月1回以上、定期開催し、特別支援教育を必要とする児童への校内支援体制の改善や、様な特性に対応し得る環境の整備が必要となる。合わせて、会議開催時間も、勤務時間内に実施できるよう、各種会議との調整を図る。 | A<br>B<br>C<br>D | 5<br>1<br><br> | ●今年度に関しては、学校公開が一度しかできておらず、保護者が学校の様子を見る機会が少なかったのが残念でした。その代替として、学校HPを充実させていたのは良かったです。<br>●教員の業務が多くなる中、工夫や改善が行われていると感じる。教職員間の情報共有もできていると思う。<br>● |
| | | 授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。 | 4:学期に2～3回（年間6回）以上行った。<br>3:学期に1回（年間3回）以上行った。<br>2:年度間に1回以上行った。<br>1:実施しなかった。 | 3 | | | | | | | |
| | | 各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3:80%以上の教員が回答した。<br>2:60%以上の教員が回答した。<br>1:60%未満であった。 | 3 | | | | | | | |
| | | 校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。 | 4:月1回以上行った。<br>3:学期に2～3回行った。<br>2:学期1回以上行った。<br>1:実施しなかった。 | 3 | | | | | | | |
| プラン6 学校・家庭・地域が一体となって子どもとともに進める教育 | 学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。 | 教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。 | 4:週3回以上更新した。<br>3:月に2～3回更新した。<br>2:学期2～3回以上更新した。<br>1:更新しなかった。 | 4 | 保護者向け学校評価アンケート「学校は，家庭や地域と連携を図って，教育活動の充実を図っている」項目において、「はい」（A評価）の回答の割合 | 4: 59%以上<br>3: 49%以上59%未満<br>2: 39%以上49%未満<br>1: 39%未満 | 3 | ○学校HPは、保護者や地域への貴重な情報開示の場と捉え、可能な時は毎日、繁忙期でも週1回以上は更新することで、児童の学習と生活の子を発信した。しかし、保護者が直接児童の様子を見る機会を設定することが困難な状況が続いたため、さらなる工夫が必要となっている。今後はンラインでの情報公開を検証、試行する。<br>○地域教育連絡協議会は年1回の開催にとどまった。今後も、学校の情報を可能な限り伝えることで、客観的な評価を受けることができる利点を最大限活用する。<br>○授業支援や児童支援の場において、定期的に学校支援地域本部との連携を図ることができた。今年度は、連携部分が限定的になってしまったので、今後は特色のある教育活動を共に創り上げるための意見交換を行う。<br>○PTAとおやじの会には、この状況の中で様々な工夫を凝らした活動を提 | A<br>B<br>C<br>D | 4<br>2<br><br> | ●学校とPTAの連携は良くとれました。イレギュラーなことが多い中で、いろいろと相談しながら進められたと聞いています。<br>●おやじの会のイベントも、中止になり寂しかったです。オンラインイベントを行っていましたが、もう少し工夫が必要と感じました。<br>●学校ホームページもよく整理されている。地教連が定期開催できなかったが、会議の方法を工夫して実施してもらいたい。 |
| | | 地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。 | 4:毎回情報を提供した。<br>3:おおむね情報を提供した。<br>2:あまり情報を提供しなかった。<br>1:情報を提供しなかった。 | 4 | | | | | | | |
| | | 学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。 | 4:学期に2～3回行った。<br>3:学期1回以上行った<br>2:年1回以上行った。<br>1:実施しなかった。 | 4 | | | | | | | |
| | | PTA並びにおやじの会等との連携を深め、地域の教育力を生かした多様な体験活動を実践する。 | 4:年間で3回以上行った。<br>3:年間で2回行った。<br>2:年間で1回行った。<br>1:全く行わなかった。 | 3 | | | | | | | |

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A：自己評価は適切である　B：自己評価はおおむね適切である　C：自己評価は適切ではない　D：評価は不可能である　の4点について、評価した人数を記載する。